

令和7年度 目黒区立八雲小学校 学校評価報告書

評価項目	◎（成果）、●（課題）、 ◎（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	・児童・保護者・地域・教職員ともに約9割の肯定的な回答結果となった。 ◎全体的な評価は、肯定的な回答が約9割となった。個人面談や保護者会、ホームページ、保護者連絡システムなどを通して学校の様子を発信してきたことが影響していると考えられる。しかしながら、「学校の様子がわかりづらい」との意見もあった。	・児童の安心・安全を最優先した教育活動の実施を、全教職員で連携して行う。 ・児童の個人情報の取り扱いを適切に行いながら、保護者連絡システムや学校だよりの内容を工夫し、家庭や地域に情報発信を行っていく。 ・落ち着いた学校生活を送れるように、学年を軸とした学年経営、学級経営を行う。そのため、教職員の連携をより適切に行っていく。 ・PTA・地域と共に児童の健全育成の連携を図ることが重要だと捉え、適切に対応する。	・学校全体の雰囲気や学校の取組に対して概ね理解されていると感じる。 ・多様な意見に対しても、個人情報の取り扱いに注意しながら、積極的に情報発信することで改善するとよいと考える。
II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	・保護者・地域に向けた、学校の教育目標や指導の重点については、保護者については8割程度、児童については9割程度であった。 ◎児童に対しては、40分授業午前5時間制の学校生活が効果的に機能していると考えられる。しかしながら、その成果を保護者に発信できていないことも影	・40分授業午前5時間制の利点をさらに生かしつつ、生み出した時間を利用して取り組んでいる自己選択学習などの様子や効果の発信に力を入れていく。	・40分授業午前5時間制で生み出した時間が、自己選択学習やマイプランなどの取組に生かされていることがわかる。 ・効果や成果について情報発信に積極的に力を入れてほしい。

	響している。		
Ⅲ心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎児童・教職員共に9割以上であった。保護者についても8割程度であった。昨年度と比較しても評価が上がっていることから、日常的な指導や毎月行っている学校生活アンケートからの実態把握などが効果を上げていると考える。	・道徳科の充実と全教育活動を通して、児童に道徳的実践力や行動力を高められるよう、全教職員が一致した指導を行う。 ・毎月行う学校生活アンケートを継続して取り組み、いじめの早期発見早期対応に引き続き取り組んでいく。	・心の教育については保護者・地域に見えにくい面がある。家庭・地域と連携しながら、家庭の教育力、地域の教育力の伸長を図っていく必要もある。
Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について	◎9割を超える児童が肯定的な回答をしている。昨年度よりも微増していることから、40分授業午前5時間制の学校生活が、子どもたちの学習意欲向上に結びついていると考えられる。 ●保護者の評価については8割程度の肯定的な回答であった。保護者に対する情報発信が不十分であったことが影響していると考えられる。	・今年度取り組んできた40分授業午前5時間制での授業研究をさらに深めながら、学習を充実させていく。 ・40分授業午前5時間制で生み出された時間を生かして取り組んでいる自己選択学習をさらに充実させ、児童の自己調整力を高めていく。 ・保護者への情報発信を充実させ、保護者の理解・協力を求めていく。	・40分授業午前5時間制によって生み出された時間の活用について、自己選択学習やマイプランタイムなど、効果を上げている様子が見え始める。取組を継続していくと共に、情報を保護者に伝えていくことが大切である。
Ⅴ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	・9割を超える児童が肯定的な回答をしている。保護者についても9割に迫る肯定的な回答を得ている。 ◎体育や外遊びの充実に加え健康や食育の指導が定着してきていると考えられる。	・引き続き体育科の指導を充実させることとともに、休み時間での外遊びなど、運動量の十分な確保を行う。 ・養護教諭・栄養士・健康トレーナーの各専門的な立場から、児童へ生活習慣の指導・助言を充実させる	・「ここカラダ週間」などの取組について、家庭と連携して取り組んでいることがわかった。来年度も継続して行ってほしい。
Ⅵ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・	○児童は前年度と同様の9割以上の肯定的な評価であった。児童が主体	・特別活動に対する理解を深め、児童が自主的・自発的に行動できるよう	・子どもたちが主体的に行事や学校生活に取り組んでいくこと

<p>部活動の活性化などについて</p>	<p>となった特別活動の展開が定着できている結果だと言える。</p> <p>●保護者・地域では、評価が7割程度であった。学校行事やクラブ活動等の意図やねらい、特別活動とはどのような活動なのか、地域や保護者へ周知・発信していくことが必要であった。</p>	<p>教育活動を充実させていく。</p> <p>・学校行事の意図やねらいを保護者・地域に適切に発信し、教育活動としての学校行事に対する理解を求めていく。</p>	<p>が大切である。今後も自主的・自発的に活動していく環境を醸成していくことで改善が図られると考える。</p>
<p>VII 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>・児童の肯定的な回答が9割を超えている。保護者・地域については8割程度の肯定的な回答となっている。</p> <p>◎毎月の学校生活アンケートの実施や児童との面談などを行った結果、児童の悩み等を早期発見、早期対応につなげられた。こうした学校の取組を保護者・地域に適切に発信していく必要があった。</p>	<p>・引き続き、いじめ未然防止、早期発見に向けて、いじめ不登校対策委員会を中心に、児童理解を深める。</p> <p>・生活指導ルールについて、教職員が共通理解を図り、どの教員も同じように児童に接するように、組織として児童の育成に努める。</p> <p>・学校の取組について、保護者・地域に適切に発信していく。</p>	<p>・組織的に行っている取組が機能していると感じる。取組を継続しつつ、様々な状況に対応できる組織の構築をすすめていくとよい。</p>
<p><防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎9割以上の児童が肯定的な回答をしている。毎月の避難訓練を徹底して行うなど、安全教育の指導の徹底が現れている。</p> <p>●保護者の肯定的な回答は8割程度であり、児童と保護者の回答に差が見られた。学校での安全教育について周知すると共に、保護者参加型の安全教室や名札着用などの協力の伴う</p>	<p>・毎月の避難訓練や安全指導についての意義を児童にしっかりと伝えて、児童が安全についての意識を十分にもち、避難行動がとれるように指導していく。</p> <p>・引き渡し訓練やセーフティ教室などの教育活動を充実させ、保護者・地域と共に学校の安全を守るという意識を向上させていく。</p>	<p>・防災教育や安全指導について、様々な取組がなされていることがわかった。今後もこの取組を継続させながら、情報の発信をすすめていってほしい。</p>

	学校の安全への参画を促していく必要がある。		
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつ運動や中学校行事の参観、地域の保育園・幼稚園との交流などを行っているが、保護者の回答が6割程度にとどまった。これは情報の不足によるところが大きく、より積極的な発信が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携では、第十中学校との共通のテーマの下で交流を推進する。 ・近隣の幼稚園・保育園とも積極的に連携して充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小・中連携についての情報発信に力を入れていくことが望ましい。
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎保護者・地域の回答は7割程度であった。学校だよりとホームページ、保護者連絡システムなどの情報発信については、大幅に見直しを図り、個人情報の取り扱いに気をつけながら積極的に発信した。一方で、発信頻度について、「多すぎる」との意見もあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、ホームページ、保護者連絡システムの活用など、また、学校公開、各行事を通して、保護者に児童の学校での活躍の姿を示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への情報発信を強化していこうという取組について理解することができた。個人情報の扱いに気をつけながら、今後とも取り組んでいくとよい。
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員の肯定的意見をもっているという結果となった。40分授業午前5時間制の利点を生かし、組織的に学校運営、人材育成が大きな要因となっていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業午前5時間制で生み出した時間をさらに有効的に使い、OJTや校内研究を充実させていく。 ・職層に応じた人材育成を行い、組織の力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成はどの職場についても大切な課題である。40分授業午前5時間制で生み出した時間を有効に活用して今後も人材育成に取り組んでいくとよい。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組 	<p>◎教職員の肯定的な回答は8割を大きく超える結果であった。40分授業午前5時間制の導入により、校務にあた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業午前5時間制で生み出した時間をさらに有効利用し、授業改善の時間や研究の時間を業務内に行うなど、業 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組によって教職員の働き方が改善されていることがわかった。今後とも取組を継続していったら

<p>組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>る時間の確保ができた結果であると考えられる。また、職員室などの環境の整備、様々なデジタル機器の効果的な使い方により改善が図られた結果でもあると考える。</p>	<p>務の最適化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務システムの有効活用に合わせて、副校長補佐やスクールサポートスタッフの効果的な運用を図り、さらなる効率化や最適化を図る。 	<p>しい。</p>
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>○全ての教職員が肯定的な回答であった。定期的な研修やワークショップなど、教育公務員としての服務事故撲滅に向けての意識の醸成を図ることができ、組織的に対応することができた表れだと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 組織としての対応のさらなる強化を図り、事故防止に努める。そのために、服務研修等を通して意識を醸成し、チームとして教育活動にあたっていく。また、全教職員が服務事故防止に関して意識を高められるよう、日常の適切なサービスの意識の向上と実践を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 服務事故防止は大事な課題である。今後も取組を継続し、服務事故ゼロを目指してほしい。